

特集：大学教育にみるレジャー・レクリエーション

青森大学社会学部社会学科 観光・レジャーコース

—地域プランナー養成をめざしたカリキュラム—

工藤 雅世* 土屋 薫*

Professional Education on Leisure and Recreation Studies at Aomori University —Curriculum Designed to Train Community / Regional Planners—

Masayo KUDOH* and Kaoru TSUCHIYA*

1. 観光・レジャーコース設置に至る経緯

青森大学は1968年度に開学、当初は経営学部のみであったが、1981年度、社会学部が設置された。

社会学部の理念として掲げられたのは「地域に貢献し、地域に根ざした研究・教育の実践」である。その具体的目標として「地域プランナー養成」が設定された。この理念・目標は、現在も継承されている。

社会学部は設置時、社会学コースと社会福祉コースの2コース制でスタートしたが、1990年度、レジャー社会学コースが新たに設けられ、3コース制となった。

その8年後の1998年4月、コース名を、レジャー社会学コースから観光・レジャーコースへ変更した。同時に、カリキュラムを一部改訂し、現在に至っている。

この変更および改訂は、次の2つの理由による。

第1点は、社会学部社会学科の再編に伴うものである。1997年度、社会福祉学科が設置されたのを受け、社会学科においてコースを再編。本コースの名称変更、カリキュラム改訂は、この一環として実施した。なお、現在、他に、地域計画コース、社会情報コースの2コースがある。

第2点は、1998年度、青森県が「文化観光立県宣言」をすることを受け、地域に密着した研究・教育をいっそう展開するためである。観光を対象とした研究・教育を強化することを狙いとした。

2. 観光・レジャーコースの理念・目標

観光・レジャーコースの理念・目標は、基本的に、前述した社会学部の目標・理念に基づく。

その上で、本コースの理念として、以下の3点を設定している。

- 1) レジャーの本質から考えた個人・地域・日本・世界、それぞれのあり方と接点を見出す能力を養うこと。
- 2) 自由時間の過ごし方の一形態であり、地域社会・地域文化・自然環境に大きな影響を与える観光および観光産業のあり方を、統合的な視点から考察すること。
- 3) 青森県のレジャー・観光をめぐる状況を反映した研究・教育を展開すること。

以上の理念に基づき、本コースの目標として、以下の7点を設定している。

- 1) 生活の質 (Quality of Life) を社会的観点から考え、地域のあり方を構想できる人材育成をめざす。
- 2) 青森県全体を視野に入れて、地域特有の文化資源を生かした観光ソフトプログラム開発のできる人材育成をめざす。
- 3) 三内丸山遺跡に代表される考古学的な資源を生かした観光ソフトプログラム開発のできる人材育成をめざす。

* 青森大学社会学部 Faculty of Sociology, Aomori University

- 4) 自然資源を生かした観光ソフトプログラム開発のできる人材育成をめざす。
- 5) 学生に、観光業務に関連する資格（一般旅行業務取扱主任者など）を取得させることをめざす。
- 6) 以上1)～5)の5点を包括的かつ統合的に扱えるように、カリキュラム・組織を充実させ、青森県内の観光産業・社会教育事業・生涯学習事業への人材供給センター、あるいは、再教育センターとなることをめざす。
- 7) 青森県内外からの調査依頼に積極的に対応していく。

以上の目標のうち、1)～6)の6点は人材育成に関するものである。その目標実現は、青森県における文化観光の確立、および、文化観光の視点による観光産業の再編成につながるものと考えられる。

3. カリキュラムの編成方針

カリキュラムは、本コースの理念・目標を具体化するためのものである。地域や観光に関して、今後のあり方を構想できる人材を育成するために、以下の3点を方針として、カリキュラムを編成している。

- 1) 持続可能な開発、および、地域の内発的発展を担っていける人材として必要な知識・スキルを獲得できること。
- 2) オールタナティブ・ツーリズム（もうひとつの

観光）の考え方に基づいた観光計画・観光デザイン、あるいは、旅行企画のできる人材として必要な知識・スキルを獲得できること。

- 3) ホスピタリティの本質に根ざした観光産業を担っていける人材として必要な知識・スキルを獲得できること。

4. カリキュラムの構造

表1は、現在のカリキュラムを示したものである。カリキュラムは3つの軸によって編成している。

第1の軸は「専門必修科目」である。これは、社会学科の全学生に履修を義務づけている科目で、社会学科の学生として必須の知識が獲得できるようになっている。また、1年次の履修科目は、2年次のコース選択に向けた、予備情報提供の役割をも果たしている。

第2の軸は「コース必修科目」である。これは、観光・レジャーコースにおける必修科目である。

第3の軸は「学科共通専門選択科目」である。これは、①卒業要件単位としては選択科目に分類されるが、指導によって履修を義務づけている科目、②社会教育主事任用資格の要件科目、の2種類で構成される。上記①に含まれる「生活構造論」と「生涯学習論」は、生活の質向上のための具体策を講じられる人材育成に向け、生活の構成要素とその連関、および、学習社会実現のための理念と支援策を学ぶものとして位置づけ

表1 観光・レジャーコース標準履修例

学年	専門必修科目	コース必修科目	学科共通専門選択科目
1年	社会学概論④ 地域開発論④ 情報処理④ 情報学概論④	レジャー社会学④	
2年	社会学史④ 社会調査論④	レジャー産業論④ テーマパーク・マーケティング論② 環境デザイン論②	*生活構造論④ スポーツ社会学④ 社会教育概論④ 環境社会学④
3年		レジャー論演習Ⅰ② 観光文化産業論④ 遺産社会学④ レジャー・カウンセリング実習④	社会思想史④ 教育社会学④ 家族社会学④
4年		レジャー論演習Ⅱ②	*生涯学習論④ 文化社会学④ 社会心理学④

注1. ○内の数字は単位数

注2. 一般教育科目、語学、体育のコマは省略

注3. 学科共通専門選択科目は全36科目からの選択例

注4. *は指導によって履修を義務づけている科目（卒業要件としては選択科目に分類される）

ている。

5. カリキュラムの内容

前節で述べた3つの軸のうち、観光・レジャーコースとしての特徴が表れているのは「コース必修科目」である。ここでは、カリキュラムの内容を、コース必修科目に絞って概観する。

図1(次ページ)の「観光・レジャーコース必修科目チャート」は、各科目の性格・位置づけに基づき体系化したものである。授業の内容を大項目として示している。なお、レジャー社会学は、社会学科の全学生の必修科目であるが、その科目の性格により、同チャートに組み込んでいる。

講義科目のうち、原論科目として、レジャー社会学、レジャー産業論、観光文化産業論の3科目を位置づけている。対して、各論科目として位置づけているのが、テーマパーク・マーケティング論、環境デザイン論、遺産社会学の3科目である。遺産社会学は、観光学と社会学をそれぞれ専門とする2人の教員が、前・後期で分担している。

この合計6科目を踏まえた上で、レジャー論演習として、観光人類学ゼミ、環境レクリエーション論ゼミ、レジャー産業論ゼミの3つのゼミを開設している。同演習は、教員3人がそれぞれの専門分野に基づき分担、学生は希望のゼミを選択する仕組みとなっている。

さらに、3年生を対象にレジャー・カウンセリング実習を実施している。本実習は本コースの特徴の1つと考える。

まず、本実習に対する授業時間配分であるが、1週間に連続した2コマを配分。さらに、この通常の授業を踏まえた上で、フィールドワークを実施している。フィールドワークは、3つのプロジェクトで構成している。

1つ目は、自由時間を大切に生活設計に関するものである。レジャーの本質に基づいたライフスタイル設計の開発に向け、そのヒント獲得を狙いとしている。

2つ目は、青森県のレジャー・観光資源の開発・評価とその情報化に関するものである。これまで、リゾート施設(第3セクター経営)の評価に関する受託調査、温泉街の評価に関する調査などを実施してきた。なお、温泉街を対象とした調査においては、現地のホテル経営者との情報交換として、調査報告会を開催した。

3つ目は、地域活性化と地域住民の生活の質向上に関するものである。その代表的なものは、青森県南部に位置する南郷村で毎夏、開催される「南郷サマージャズフェスティバル」(主催・同実行委員会)へのスタッフとしての参加、および、同フェスティバルと南郷村の地域活性をめぐる調査である。同フェスティバルは、同村が実質的に主催、文化庁によって地域活性化事業として評価されたもので、過去、地域活性に関する4つの賞を受賞している。本実習においては1996年度から継続参加、調査報告書を同村役場へ提出している。

同フェスティバルは毎年7月末、本学の前期末試験直後に開催される。そこで、前期における本実習は、同村での活動・調査に向けた準備期間と位置づけ、学生に対してそのためのプログラムを提供する。表2は1999年度の例である。

表2 1999年度前期・L. C. 実習プログラム

月	日	プログラム
4	22	レジャー・カウンセリングの概念を知る
5	13	取材方法&文献調査方法の獲得
	20	インターネットによる情報収集術の獲得
	27	KJ法基礎&KJ法実習
6	3	フェスティバルのプロデューサーの講話
	10	統計学基礎&SPSS実習
	17	イベント企画者の講話
	24	南郷村企画調整課・課長の講話(於同村)
7	1	調査準備(先行調査の検討・調査計画)
	8	同上
	23	南郷村へ出発(2泊3日)

調査に当たっては学生を班分けし、調査テーマは班ごとに学生が独自に設定、後期における現地での追加調査を含め、報告書を作成する。1999年度は、「南郷サマージャズフェスティバルが農産物の特産化に与えた影響に関する調査」など、6テーマが設定された。

なお、社会学科では、2001年度に新カリキュラムを採用する。観光・レジャーコースにおいても、いっそうの充実を図るべく、準備を進めている。

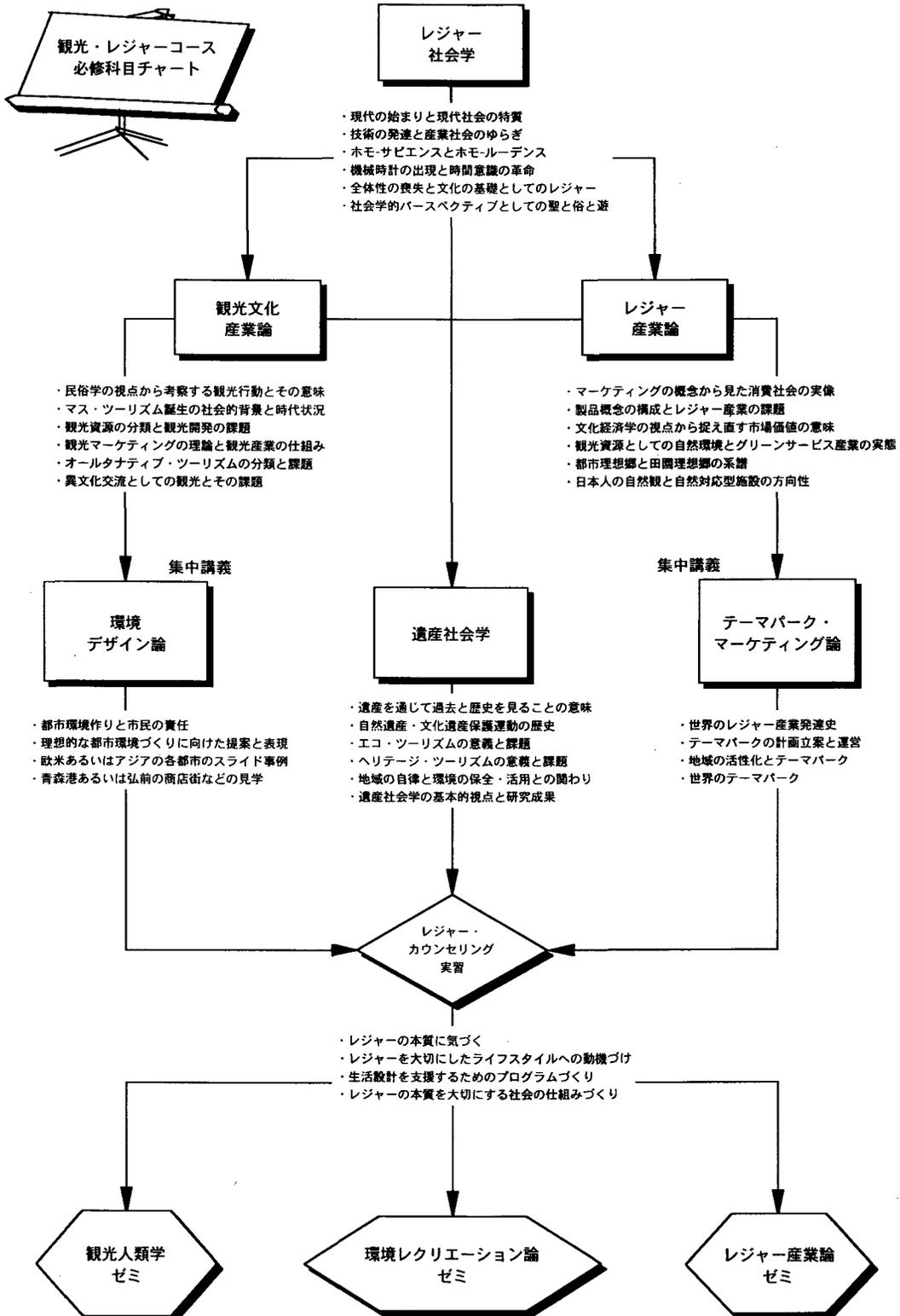


図1 観光・レジャーコース必修科目チャート